背景

なぜ、「やまなし KAITEKI 住宅 SHOEI Ver.1」は生まれたの？

国際情勢の変化や、円安などの経済的な情勢も相まって、海外産の木材や資材の高騰が、住まいづくりに対して追い打ちをかけ、私達の「住まい」をとりまく環境は、めまぐるしく変化しています。

また、核家族化や単身世帯が増加し、住まい方も、新築だけではなく、中古物件を購入してリノベーションをする人も増えてきました。

私たちは、「人や人の手の温かみや創造性を大切にし、時代や国境を超えて永く愛される空間や、ライフスタイルが提案できる会社」を目指している中で、今後どのように住まいを考えていくべきか悩んできました。

「住まい」は、その地域の環境や気候、風土などの影響を受けて形づくられます。豪雪地帯には、積雪対策として、深い軒や急な屋根勾配の住まいがあり、台風の多い地域では、木造住宅だけでなく鉄筋コンクリートで造られた住まいがあるように、都市部では、周囲の目線を遮るようなプライバシーに配慮した住まいがあり、郊外では、都市部とは異なる住まいがあるように、先人たちは、その地域の環境や特性、気候を踏まえて住まいを造ってきました。

「住まい」は、その土地の気候や風土、暮らしに寄り添うかたちで、長い年月をかけて育まれてきました。

例えば、岐阜の白川郷では、雪深い冬に備えて「合掌造り」と呼ばれる、手を合わせたような急勾配の屋根が特徴の家が建てられてきました。これは、屋根に積もった雪が自然と滑り落ちるように工夫されたもので、雪国ならではの知恵の結晶です。

一方、直射日光がつよく、台風が多くて湿気も強い沖縄では、赤瓦の屋根と石垣、そして屋敷林に囲まれた住宅が発達しました。強い風をやわらげ、暑さや塩害から住まいを守るための工夫が、自然と共に生きるための先人の知恵でした。

都市部では、隣家との距離が近いため、視線をやわらかく遮る窓の配置や、中庭を囲むようなプライバシー重視の設計が多く見られます。一方、郊外や自然に囲まれた地域では、風が通り、光がやさしく入る開放的で伸び伸びとした住まいが好まれています。

このように、住まいは、自然と調和しながら、そこに暮らす人々の暮らしを守り、育むために形づくられてきたものであり、先人たちの知恵と工夫が詰まった、地域ごとの“暮らしのかたち”と言えます。

それでは、私達の暮らすこの地域「やまなし」は、どのような場所なのでしょうか？



【寒暖差の激しい“やまなし”】

山梨県は、日本の内陸部に位置し、海洋の影響を受けにくい、内陸性気候に分類されます。気温の変化が大きく、乾燥しており、降水量が少ないのが特徴です。特に、日較差（昼と夜の気温差）や年較差（夏と冬の気温差）が大きい傾向があります。

【夏暑く・冬寒い“やまなし”】

甲府盆地周辺では、夏は最高気温が 40℃に達する日もあり、冬は氷点下になることも多く、「夏は暑く、冬は寒い」という特徴が顕著です。また、盆地特有の地形によって、空気がこもりやすく、夏は湿気が滞留して体感的な暑さが増し、冬は冷気が抜けにくいために底冷えするような寒さを感じることがあります。

【山々に囲まれた“やまなし”】

山梨県は、周囲を山々に囲まれた盆地地形であることが、気候に大きく影響しています。南アルプス、八ヶ岳、秩父山系、富士山に囲まれ、夏では、フェーン現象が発生すると、空気は昇温し、甲府盆地を高温にします。また、冬の季節風は、北風となり、八ヶ岳方面から、八ヶ岳おろしとなって盆地に吹き荒れます。一方で、その地理的条件から、日照時間は全国トップクラスとなっており、降水量は、全国的にみて少なめとなっています。

【同じ県でも、複数の気候をもつ“やまなし”】

山梨県は標高差が大きいため、富士五湖周辺や八ヶ岳、南アルプスなどの高地では、甲府盆地周辺と比べて年間を通じ、冷涼な気候になります。移住エリアとして、人気の八ヶ岳周辺の気候は、標高が高く、高冷地特有の冷涼な気候となっており、夏は避暑地として人気で、湿度が低く過ごしやすい地域ですが、冬は厳しい寒さとなります。富士五湖周辺の気候も、年間を通じて冷涼な気候ですが、冬は冷え込みが強く、積雪が多く、氷点下 10℃以下になることもあります。富士山の存在により、南からの暖かい空気を遮るため、北麓地域を高冷な気候としており、甲府盆地の気候とは異なります。

このような、私たちを取り巻く社会状況の変化や、「やまなし」の風土の中で、どのような住まいを提供するべきか。そんな疑問から、「やまなし KAITEKI 住宅　SHOEI　Ver.1」は生まれました。

コンセプト

私たちの考える“やまなし”の住まいとは?

1. 安全安心

住まいに求められる基本的で最も重要な性能は、「安全安心」です。建築基準法では、最低限の基準で私たちの暮らしを担保していますが、南海トラフ地震の発生予想や、気候変動に関するニュースなどは以前にも増し、住まいに求められる安全性はこれまで以上に重要になっています。通常の木造の住宅では必ずしも、構造計算（許容応力度計算）が義務づけられておりませんが、私たちは、20 年以上前から、全ての建物で構造計算（許容応力度計算）による安全性を工学的に検証し、地震や台風などの自然災害から暮らしを守ってきました。



2. 健康

近年、住まいの温熱環境と「健康」への関連性に関する様々な研究が行われており、住まいの「断熱化・気密化」による「健康」への良い影響について、ヒートショックの予防、呼吸器疾患のリスク減、アレルギーやアトピー気管支喘息の改善、血圧抑制、精神的ストレスの軽減、睡眠の質向上、コレステロール値低下などが報告されています。



特に、“やまなし“は、気温の寒暖差が大きく、厳しい住環境に対応するには、住まいの「高断熱・気密化」が必要であり、それが私たちの暮らしの「健康」につながると考ます。

3. 地域&地球



脱炭素社会の実現や、住宅関連の産業廃棄物の排出抑制など、地球環境問題への取り組みは、我々の世代に課された重大な責務であると考えます。かつては、日本の住宅の多くが、様々な理由から 30 年程で建替えられていましたが、これからの住まいは、持続可能で、環境にやさしい住まいづくりが重要であると考えています。

こうした視点から、これからの住まいづくりにおいては、以下の点が大切であると考えています。

（1）エネルギーロスの少ない“高性能な住宅”をつくる

自然の光・風・熱を取り込むパッシブ設計という手法と、高断熱・気密性向上により、エネルギーロスのない高性能な住まいをつくる。

（2）再生可能エネルギーを導入する（自給自足型へ）

太陽光発電設備や蓄電池等をはじめとした、再生可能エネルギーの導入により、自宅でつくったエネルギーで暮らす。

（3）「ライフサイクル全体」で CO_2を考える

サステナブルな家とは「永く使えて、将来に渡って環境に優しい家」であるという考え方に基づいて住まいを計画する。

（4）地域性を活かす

私たちがご提案する住まいには、山梨県産材をはじめとする地域の木材を積極的に取り入れます。県内や近隣から調達した木材を使うことで地域内経済循環に寄与し、運搬エネルギーも削減できることから CO2の抑制にもつながり、地元の木を使った住まいは、住まいへの愛着や安心感を醸成します。

地域の会社として、創業 65 年を迎えた弊社は、地域経済に貢献することが大切な使命であると考えています。また、建物は地域に対する社会性を持つことから、住まいは、地域の景観に配慮されたものである必要があります。

家を建てることは、地域の未来をつくること。そんな想いで、私たちは地域とともに、永く受け継がれる家づくりに取り組んでいます。

4. 住まい手目線

現代社会において、高齢者世帯や子育て世帯、多世代同居など、家族のかたちはさまざまです。だからこそ、住まいには「誰にとっても基本的に必要な性能」と「それぞれの暮らしに寄り添った工夫」が必要です。

山梨県では、人口減少への危機感から、子育て世帯が安心して暮らせる住まいづくりが大きな課題となっています。私たちは、機能だけでなくデザインや暮らしやすさにもこだわり、「住まい手目線」の家づくりを大切にしています。

例えば、デザインが良くても住まいの維持費が高く、子育てや生活に負担がかかってしまっては本末転倒です。また、どんなに機能的でも、心がときめかない住まいには愛着を持ちにくいかもしれません。

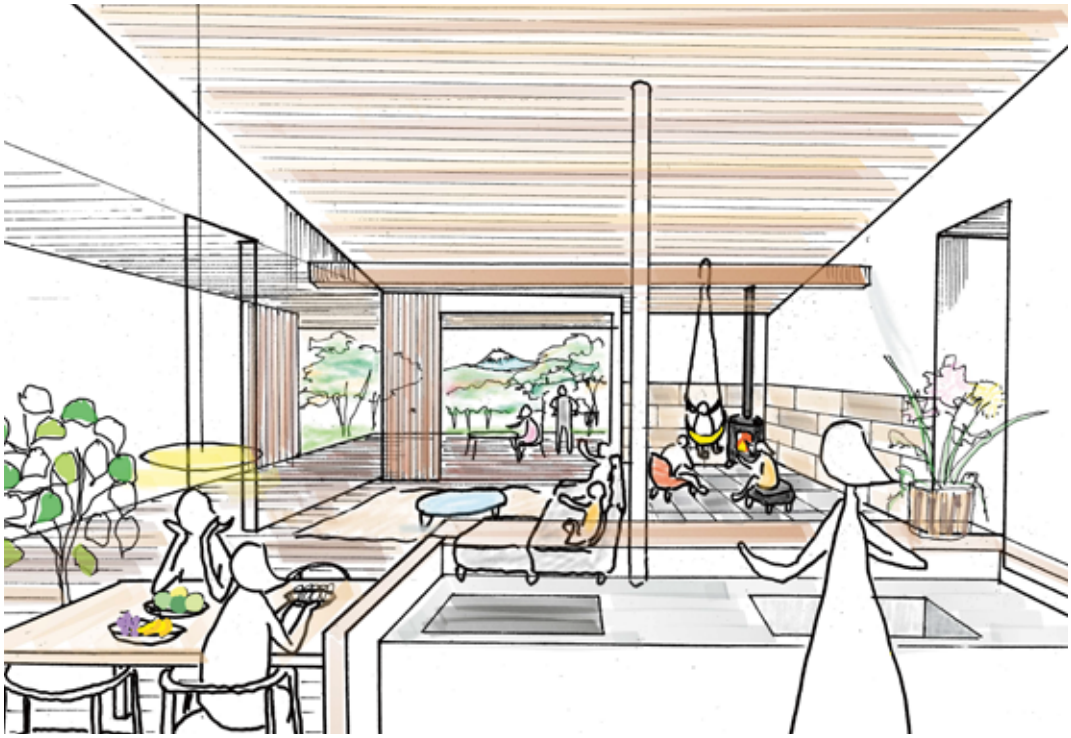
私たちが目指すのは、機能・デザイン・素材・家具・メンテナンス、すべてを暮らしの一部として楽しめる、自然体で「好き」と思える住まい。住む人の価値観やライフスタイルに寄り添い、永く愛される家をつくっていきます。



特 長

やまなしの気候風土と暮らしに寄り添う
「やまなし KAITEKI 住宅 SHOEI Ver.1」とは?

SHOEIが提案する「やまなしKAITEKI住宅」は、地域の気候・風土・暮らしにしっかりと根ざし、
以下の6つの視点で、これからの“住まいの理想”をカタチにします。



～ 暑さ・寒さの厳しい“やまなし”で、家族が快適に、安心して、永く暮らせる住まい ～

1. 高断熱・高気密 × 経済性の両立

HEAT20 G2 グレード+C 値 0.5 以下を標準仕様
夏は涼しく、冬は暖かく
高性能な断熱・気密で、光熱費も削減

2. 災害に強い構造設計

全棟で構造計算を実施し、耐震等級 3 以上を実現
地震や台風に備えた、安心の構造安全性

3. 自然エネルギーを活かした「ハイブリッドエコ住宅」

太陽の“光”と“熱”を活かすハイブリッドエコ住宅
太陽光発電 + パッシブソーラー「そよ風」で、快適・省エネ・災害にも強い暮らし

4. 環境とともに生きる

長寿命構造、将来のリフォーム対応まで考えた設計
住まいのライフサイクル全体で CO_2を削減

5. 住まい手目線の設計

多様な家族構成に対応した設計
省エネとメンテナンス性
自然素材や造作家具、DIYで愛着のある空間づくり
完成後も暮らしの変化をサポート

6. 地域に根ざした住まいづくり

山梨県産材を積極活用し、地元企業・職人との協業による地元と共に歩む住まいづくり
山梨の気候風土や景観に配慮した住まいづくり

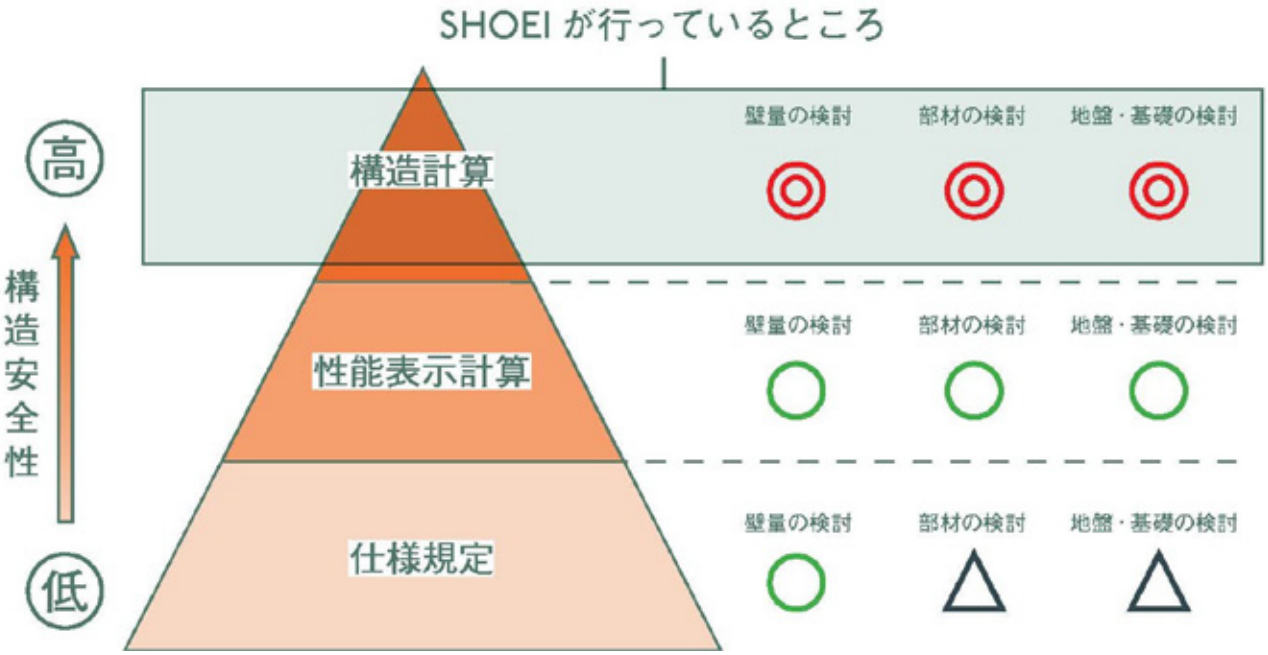
1. 高断熱・高気密×経済性の両立

寒暖差の激しい山梨で、快適に過ごすために、トップクラスの性能である、断熱等級 6 以上の断熱性能を満たします。また、気密性能（C 値）0.5 以下を標準とし、寒暖差の激しい山梨の気候に対応します。「やまなし KAITEKI 住宅　SHOEI　Ver.1」では、冷暖房効率が高いため、光熱費削減にも寄与できます。（標準で、長期優良住宅を取得しています。）



2. 災害に強い構造設計

全棟、専門の構造設計者による許容応力度計算を行い、住まいの安全性を検証しています。長期優良住宅の耐震等級3を超える水準の耐震性能を確保しており、台風や山梨県でリスクが高まっている南海トラフ地震等の災害に備えます。



3. 自然エネルギーを活かした「ハイブリッド住宅」

●太陽の「光」と「熱」を暮らしに取り入れる

太陽の「光」と「熱」という２つのエネルギーを有効活用することで、快適で経済的、そして環境にもやさしい住まいを実現できます。当社では、「太陽光発電」と「そよ風」とのシステムを組み合わせたハイブリッドエコ住宅をご提案しています。山梨は、全国でも日照時間が長いため、「太陽光発電」と「そよ風」とのハイブリッドによる相性がバツグンです。

（1）ソーラーパネル発電システム（光利用）

太陽の「光」から電気を生み出し、家庭内の電力を賄い、余った電気は売電するシステムです。蓄電池を併用することで、停電や災害時にも安心です。

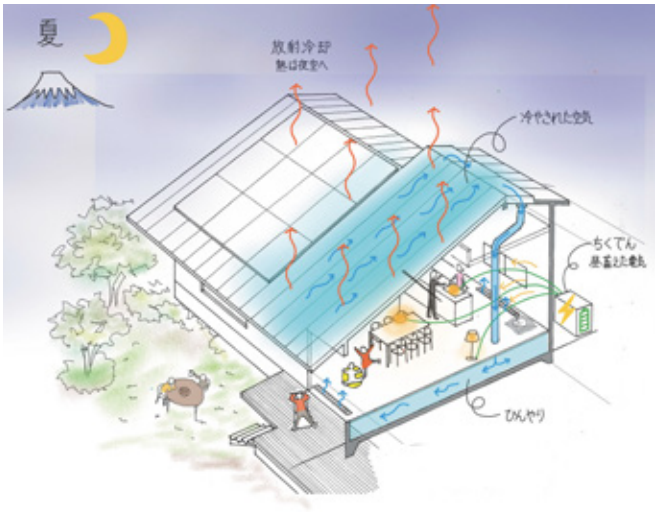
（2）パッシブソーラーシステム「そよ風」（熱利用）

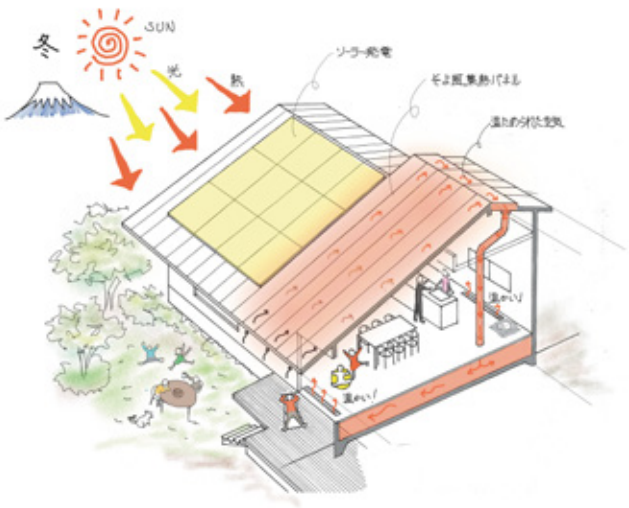
「そよ風」は、太陽の熱と空気の流れを利用して、室内の温熱環境を整えるパッシブ設計のシステムです。わずかな電力で一年中快適な室内環境を実現し、電気や化石燃料に頼ることなく、健康的で環境にやさしい住まいを手に入れることができます。

●自然に配慮した「パッシブ設計」

機械設備に頼りすぎず、住まいの高断熱化や、庇・窓の配置を工夫して、夏は直射を遮り、冬は太陽光を取り込み、自然の通風を意識して、快適な住まいを目指す「パッシブ」設計という手法を取り入れています。

開口部には樹脂アルミ複合サッシを標準で搭載し、日射取得と遮蔽の両立を設計段階で検討し、温熱環境を考えています。





4．環境とともに生きる

「永く使えて、将来にわたって環境にも優しい家」を実現します。

“建てるとき”

・長期優良住宅等による長寿命構造
・環境負荷の低い建材の使用（県産材・再生材など）によるCO2 の削減

“暮らすとき”

・高断熱気密化による冷暖房機器のコスト削減
・高効率給湯機器・省エネ設備等の導入によるCO2削減

“住み継ぐ”

・スケルトンインフィルにより構造をシンプルに
・将来のリフォーム・リノベーションが容易
・建設廃棄物を抑え、永く使える住まい

※スケルトンインフィルとは、「スケルトン（構造躯体）」と「インフィル（設備・内装）」を分けて建築する手法です。「スケルトン（構造躯体）」と「インフィル（内装・設備）」を区分した構造と納まりにしておくことで、内部空間を必要に応じて変えることができるため、家族の人数やお子様の成長に合わせて、住まいを変化させることができます。



5. 住まい手目線の設計

私たちの家づくりは、「住まい手目線」を大切にしています。子育て世帯や高齢者世帯、多世代同居など、多様な家族構成に対応できる可変性のある間取りや、家事・育児がしやすい動線設計、バリアフリー対応など、暮らしやすさを第一に考えています。

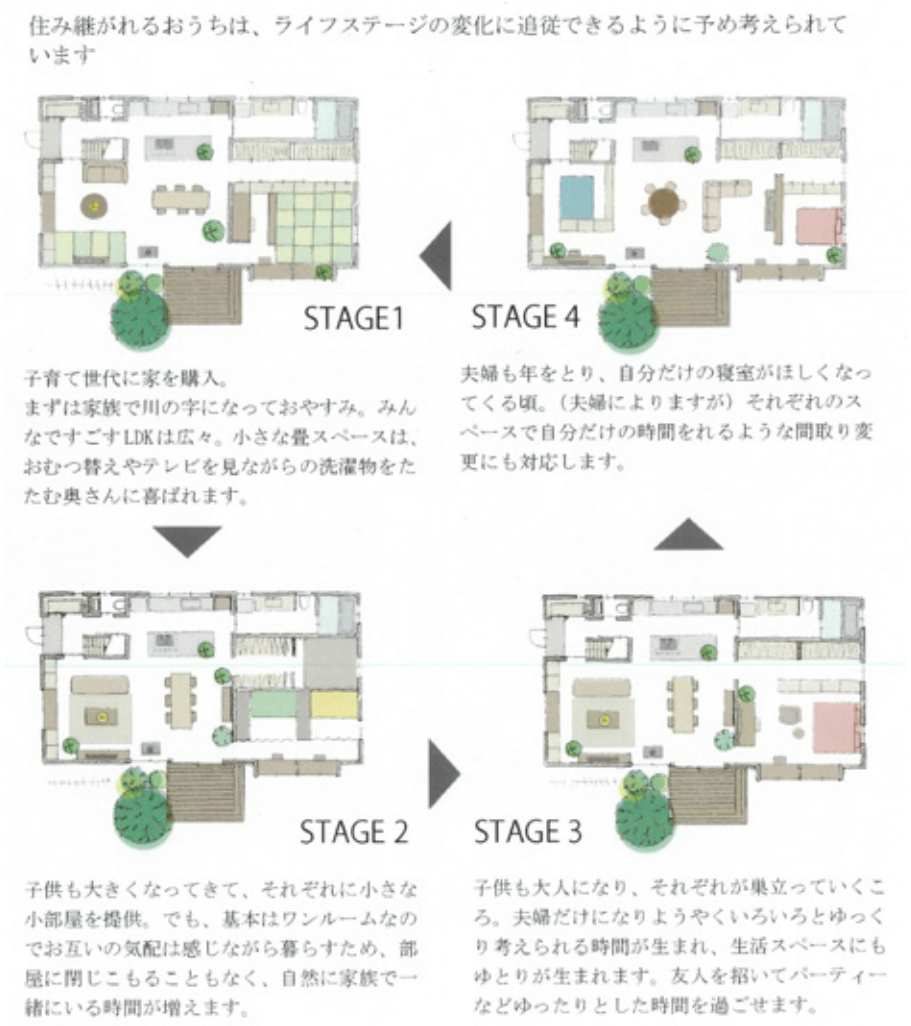
また、高断熱・高気密による省エネ性能化や、メンテナンスが容易な素材を使用することで、家計と環境への負担を軽減します。

さらに、経年変化を楽しめる自然素材や、オーダーメイドの造作家具提案、DIY による住まいづくり体験、シンプルで飽きのこないデザインを取り入れるなどの工夫により、永く愛着を持って暮らせる住まいを実現します。

完成後も、長期的なメンテナンスサポートやライフステージの変化に応じた提案で、住まいとともに歩む暮らしを支えていきます。







6. 地域に根差した住まいづくり

私たちは、山梨県産材をはじめとする地域の木材を積極的に取り入れ、地産地消を推進します。地域で育った木を使うことは、住まいへの愛着や安心感を高めるだけでなく、木の生産者や産地の顔が見えることで品質への信頼にもつながります。さらに、地元の資源を活用することは、地域経済の循環を生み出し、山や林業を守ることにもつながります。

このため、県産材を積極的に活用するため、地域の企業や職人、工房と連携し、外壁や造作家具等への使用を推し進めます。

県産材の造作材



山梨の家具職人による桜材キッチン



また、ひとたび建てられた住宅は、個人の財産であると同時に、地域社会の一部としての役割も担うことから、地域の景観や街並みに調和するよう、屋根形状や軒先、間取り、色彩など、山梨の気候風土に合った和モダンのテイストを取り入れます。



